

令和6年度 自己評価報告書



令和6年4月1日

■ 園の概要

当園は、埼玉県越谷市に昭和 47 年 4 月に学校法人として開園しました。

長年、産業道路沿いの「ピンク色の幼稚園」として子ども達を目ひく園舎にて幼児教育を行ってきました。平成 25 年 4 月、園舎の老朽化や交通量の多い道路事情を考慮し、よりよい教育環境をめざし川柳町へ移転、新築いたしました。

待機児童の増加という現在の子育て事情を鑑み、「少しでも、地域の子育て環境を良くしたい。」との思いから、保育園部門を設置し「認定こども園」として同年開園致しました。

平成 27 年「子ども子育て新制度」に伴い、幼稚園部門・保育園部門が統一され、新たなスタートを切っております。

■ 本園における園評価のねらい

学校評価を実施することにより、より良い保育や園行事・園運営の充実に生かしていきたいと考えております。職員の自己評価や、外部の皆様に意見を出して頂くためのアンケート調査を行い、前年度よりも内容の濃い園評価を実施していきたいと思っております。

学園理念

【教育目標】

つよい体やさしい心の子どもに育てる。

【保育目標】

家庭的保育かつ集団生活における教育の中で一人一人がいきいきとした生活を送る。

【経営理念】

子ども・保護者・教職員に対するサービス心の経営。

基本方針

総合的な経験や具体的な活動を通して、情緒の安定した安全な生活を送り、心身の健全な発達を図る。子育て付加事業により、保護者の思いをサポートしながら、子育て環境の活性を図り社会的役割を果たす。

教育目標

- 一、心身共に健康で明るい子ども
- 一、がまん強く、頑張りのきく逞しい子ども
- 一、優しく素直で、思いやりのある子ども
- 一、ご挨拶の出来る子ども

保育の計画性	□ 学園理念や保育・教育目標 □ 5 領域 10 の姿の理解 □ 指導計画の作成 □ 環境構成 □ 評価・反省
【目標・取り組み】 □ 児童票・年カリ・月案・日誌に目を通し保育の共有をする。 □ 現在の子どもの姿を捉え、クラス・学年・フリーの先生と連携を図りながら個々の成長を考えていく。 □ 意識し、考え、行動にする。反省を次に生かす。 □ 遊びを通して計画の作成と振り返りをしていけるよう助言していく。 □ 子ども達の育ちを、学年の職員と連携し合って計画していく。 □ 学園の理念、教育目標への理解を深め、本年度のスローガンを常に意識しながら子どもへの保育に向かっていく。 □ 一人ひとりの子どもの関心や興味を持った展開に応じ、言葉掛けや環境作りに取り組む。 □ 表情から思いをくみ取り、安心感をもてる接し方を心掛ける。 □ 発達を捉えながら、計画をしていく。学年で共有しながら一緒に考えていく。	
【よく出来たこと】 □ 児童票・年カリ・月案・日誌に目を通していくことができた。 □ クラスに入り保育をすることはなかったが、学年・フリーの先生と連携を図り子ども達の姿を共に考え、保護者と共有し、クラス担任とよりよい保育について話し合ってきた。 □ 意識と言霊をテーマに一年間を通して業務をし、改めて言葉を発する事で頭の整理が出来、意味もついてくると思っしたので継続していきたい。 □ 特に 5 領域、10 の姿んば理解では学年会議の中で話し合うことが出来た。年カリ、月・習慣、日誌に目を通し、担任と直接保育計画について話をする事が出来た。 □ 学年会議の時や、普段の会話の中で、子ども達の様子を話し合い、「今の子ども達の育ちはどうか」「どのようにして育ちを促していくか」考え、計画していく。 □ 乳児組にとって、遊びの中から得られるものや育つものも多いので、それぞれの遊びを見守り、必要な時には言葉をかけ、安心して過ごせるよう意識できた。 □ 日々の保育の中で関心関心や興味を持つ道具などの環境を整え、安全面を考えた導線や配置に気をつけることを意識できた。 □ 日誌や月案でのねらいや振り返りでは、子ども達の姿を捉えながら、どこまで伸ばしていきたいかを考えることや子ども達の良さに沢山気付いていけるように記録することができた。	
【課題と思ったこと】 □ 行事の時だけでなく、日頃からもっとクラスの様子をみていきながら年カリや日誌を見ていけたらもっと良かったと思う。 □ クラス全体よりも個人との関わりの方が多かった。 □ 見通しと余裕を持った行事、日々の保育、書類の確認、配布等の流れを習慣にしていきたい。 □ 行事前は遊びの計画が減りがちになってしまう。行事に向けたところ以外にも目を向け配慮したい。 □ 合同保育の際に □ それぞれの年齢に合った言葉掛け、個々に合わせた対応がとても大切なため、担任との情報交換を常にしていきたい。 □ 限られた時間内で、共有して使用する折り紙や色鉛筆の使い方等、個々に応じた対応が行き届かない事もあった。お迎え時間などの制限がある中での対応の仕方を考えていく。 □ 行事前などでやることに追われてしまい、思うように進められなかったこともあるため、効率よく進めていく	

保育の在り方 こどもへの対応	□ 健康と安全の対応 □ 子どもとの信頼関係 □ 保育者同士の協力・連携 □ 支援を必要とする園児への取り組み
【目標・取り組み】 □ 安定した園生活がおくれるように、子どもの思いを受け止め、スキンシップを取りながら、子どもの力を引き出せる様な保育をしていきたい。 □ 子どもの様子や対応の仕方を共有し、子どもを理解して関わっていく。 □ 子ども達の言葉を受け止めて、関わり、信頼関係を築いていく。 □ 子ども達の気持ちに寄り添い、一緒に考えていく等の関わりを工夫していき、信頼関係を築いていく。 □ 業務を言い訳にせず、目の前にいる子どもに向き合う。 □ 子ども達の目線に立ち、気持ちに寄り添って信頼関係を築く。	
【よく出来たこと】 □ オムツ替え、着替え、手洗い等一つ一つが、一人ひとりとのコミュニケーションの良いチャンスと捉え、ゆったり、じっくりを心掛け、スキンシップを取りながら子ども達の思いを受け止め保育を行った。 □ 子どもの対応を担当同士で共有し、その子にとってどのような対応が良いかを考えることが出来た。 □ 人権について、自分の考え、対応を振り返り、その都度子どもの言葉の受け止め方を意識した。 □ 子ども達一人ひとりの様子を見て、気持ちに寄り添い、課題と一緒に取り組めた。 □ 「待っててね」だけではなく、理由等をしっかりと伝える声掛けができた。 □ 気持ちに寄り添い、信頼関係を築いていくことができて良かったと思う。	
【課題と思ったこと】 □ 子どもが気持ちよく切り替えたり、やろうとしたりできるよう、促していきたい。 □ 2人担任だったので、担任同士で話し合いを重ね、保育の方向性を決めておけば良かった。 □ 園児への取組の面では、日々課題に思うことが多いため、保育者同士で連携を図り、一緒に考えていく。 □ 朝の時間、バタバタしてしまう事が多かったが、要領良く行動できるよう業務を行っていきたい。 □ 子ども達が自分自身で言葉で表現する力などを身につけられるような寄り添い方を考えていけたらと思う。	

保育者としての 資質と能力	□ 専門家としての能力・姿勢・義務 □ 組織の一員としての在り方 □ 保育の楽しみ・喜び
【目標・取り組み】 □ 保育者として、保護者に対しても一緒に組む先生にもアドバイスをしたり、出来た事を一緒に喜んだり、見本となれるような行動をするようにする。 □ 子供の成長を感じながら、その時々のかかわりを充分に楽しんで保育していく。 □ 子ども達をよく観察し、子どもの姿をよくとらえて、信頼関係を築く。 □ 子どもの成長を促せるような、言葉掛け、関わりの仕方をしていく。 □ 子ども達の出来た事等を、一緒に喜び合い、褒めて伸ばしていけるような関わりをしていく。 □ 日々、笑顔でポジティブに過ごす。 □ 自分の役割に責任を持ち、報告・連絡・相談を心掛ける。	
【よく出来たこと】 □ 毎日、子ども達と関わることを楽しみ、成長を喜ぶことが出来た。 □ 他クラス、担任、パートさん保育者に協力してもらったり相談したりしながら、子ども達への関わり方を考える事が出来た。 □ 日々の成長を、子どもや職員と共に喜び、保育をすることができた。子ども達もできたこと、褒めてもらえたことに対して満足感を得て過ごせていけたようだった。 □ 一人ひとりの子どもの姿を良くとらえて、信頼関係を築いていくことが出来た。 □ 子ども達の好きなもの、興味あるものに、のびのびと一緒に楽しんで活動する事が出来、子ども達の自信につながられていた。 □ プラスな言葉掛けを多くして、子ども達のやる気が増えるような対応した。 □ 日々、子ども達の素敵な部分や危険な行動はクラス全体に伝え、共有するように心掛けた。 □ 日々の活動の中で、初めは苦手だったことも繰り返し練習していき、出きるようになったこと、頑張りたいと挑戦する気持ちなどを大切に保育できた。 □ 楽しく子ども達と関わり、笑顔で過ごす事ができた。保護者と関わる際も「明るく・笑顔で」を目標にし、年度末には「先生の笑顔が良かった」と保護者から言われることが多く嬉しかった。 □ 自分の疑問に思った点なども報告や相談 □	
【課題と思ったこと】 □ 先輩として後輩の成長につながるようなアドバイスや行動を身につけていきたい。 □ 忙しいと対応が雑になってしまうので、忙しい時こそ、心に余裕を持って関わっていきたい。 □ きちんと伝わっているかの確認をもっと細かくしていくべきだった。 □ 苦手なものでも、もっと楽しいと思えるような声掛けをできるようにしたい。 □ 今後もたくさんの事に挑戦する姿を大切に、様々な場面での関りや言葉掛けを意識していく。 □ 保護者が来園する際は緊張してしまうことがあった。	

保護者への対応	□ 情報の発信と受信 □ 守秘義務の遵守 □ マナー・心構え □ 要望への対処の仕方
【目標・取り組み】 □ 子どもの様子をこまめに伝え、保護者と連携をとり、課題に取り組み成長を一緒に喜ぶ。 □ 子ども達と保育者も何についても、一緒に楽しんで活動していく。 □ 保護者に安心してもらうことが出来るよう、日頃の出来事をこまめに伝え、コミュニケーションをよくとる。 □ 子ども達の日頃の様子、成長している姿などを伝え、信頼関係を築いていく。 □ 曖昧な返事、報告せず、しっかり調べ正しく伝える。 □ 保護者の悩みを受け止め、一緒に考えつつ、自分の言動に責任を持って接する。 □ 保護者の方が声をかけやすい雰囲気を作り、自ら話かけて信頼関係を築く。	
【よく出来たこと】 □ 言葉遣いに気をつけ明るい挨拶を心掛け、安心感を持ってもらえるようにした。 □ 保護者の方に聞かれた事には、忘れないよう、すぐに対応し、守秘義務に気をつけた。 □ トラブルや気になった事をこまめに保護者に伝えていき、安心してもらえるようにした。 □ お迎えにきた保護者や、連絡帳に、子ども達の素敵なエピソードや頑張っている姿を伝えることができた。 □ 保護者からの質問に対し、上司や先輩に聞いてから、正確な情報を伝えることができた。 □ コミュニケーションを大切にした。 □ 子ども達を良く知る事で、保護者と共に今後の保育や、家庭との連携を進めることが出来た。	
【課題と思ったこと】 □ 園生活の様子をコラージュ写真で伝えられれば良かった。 □ 預かり保育を利用して保護者の方とは、話す機会が多かったが、バス通園の保護者とは話す機会が少なかったなので、お会いした際は積極的に声をかけるようにしていきた。 □ 思い込みで、間違えている情報を伝えてしまった事があった。 □ 伝達ミスをなくすため、メモをして紙に残すなどの工夫をしていく。 □ もっと細かく、保護者と関わって子どもについてお話をする。 □ 保護者の戸の関わりに偏りが出来てしまわないよう、同じ時間配分になるよう、配慮していく。 □ 要点をまとめて、分かりやすく伝えられるようにしていく。 □ 保護者への発信する機会が少ない所。 □ 沢山話すことにより、関係を深められるようにしていきたい。 □ 自分が伝えたいこと、思ったことを言葉にしたり、文章にしたりすることの技術を上げたい。	

研修と研究	□ 研修と・研究への意欲・態度 □ 保育士としての専門性に関する研修・研究 □ 今、自分に必要な課題に関する研修・研究
【目標・取り組み】 □ 分野別リーダーとして、保護者の立場になり考え、声を掛けたり、情報を伝えられるよう心掛けたい。 □ 研修に参加して、知識を身に付け、スキルアップする。 □ 各年齢の育ちをしっかり把握し、研修に参加する。 □ 一人ひとりの子どもと保護者への対応の仕方を研究していく。 □ 子どもの発達、成長の援助について学ぶ。	
【よく出来たこと】 □ 研修を受け、保育を振り返り、自分の保育に取り入れることが出来た。分野別リーダーとして、情報を発信する事が出来た。 □ 見通しを持った先を見据えての保育の考え方を学ぶことができた。 □ 一人ひとりの子どもの性格、一人ひとりの保護者の対応、表情や動作に注目し、対応を変えながら接する事ができた □ 日々の保育、保育日誌からたくさんのことを学ぶことができた。 □ 自分の保育を見直すための堅守を受けることが出来た。実践してみたいところ、改めて大切にしていきたいところをまとめることができて良かった。 □	
【課題と思ったこと】 □ 他の保育士の研修報告を少しでも自分の物と出来るよう、目を通し、意見を出し合ったり、共有し保育につなげたい。 □ 一つの研修にしか参加できなかった為、興味のある研修に積極的に参加していく。 □ 学びの姿勢を忘れずに日々保育をしていこうと思う。 □ 自分で身に付けたいものが増えてしまい、研修を選ぶのに時間がかかってしまった。 □ 知識が浅い部分について、教材や資料などいろいろな物を活用し、知識をみにつけていきたい。 □ キャリアアップ研修を積極的に受講していこうと思う。 □ 学んだ事を自分でも試していくが、他の先生方にもしっかりと伝えていけるようにした。 □ 様々な本を読んで参考にしたり、絵を読んだり保育に取り入れたが、その中でも関わりに悩んでしまう事が多く、難しいことが沢山あるので、一人ひとりの姿をよく捉えながら、その子にあった関りを日々学んでいく。 □ 保育視診など読む機会を作らなかったなので、改めて読み直したりし、保育に生かしていきたい。	

以上

全教職員への周知・園内掲示・令和7年HP上への公開を行うものとする。